

時間割コード	G2B45101	開講年度	2026				
授業題目	比較哲学入門ゼミ				担当教員	護山 真也	
英文授業名	Introductory Seminar for Comparative Philosophy						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育5-4講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 的確に情報を収集し、理解し、発信する力				哲学的文献を解読し、その背景となる情報を収集、理解し、他の参加者に対して自らの意見を発信し、討議することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	授業形態：演習形式。 テーマ：インド哲学と西洋哲学の比較。 全体のイントロダクションの後、グループ発表と個人発表を組み合わせる形で演習形式の授業を行います。 教科書の各章とそれに対応する西洋哲学の議論に関する補助資料（e-ALPSに掲載）が発表の対象となるテキストです。発表にあたる回はもちろんですが、それ以外も資料を丹念に読み込み、議論に参加することが求められます。詳しくは【事前事後学習の内容】【履修上の注意】をよく読んでください。						
(5)授業のキーワード	哲学，比較哲学，インド哲学,グループワーク						
(6)授業計画	第01回：イントロダクションー比較哲学とは何か 第02回：インド哲学の基本に関する解説・グループ決め 第03回：哲学とは何かについてグループディスカッション 第04回：第1問「ことばには世界を創る力があるのか？」に関する発表と討議 第05回：第2問「「有る」とは何か，「無い」とは何か？」に関する発表と討議 第06回：実在論と唯名論に関する発表と討議 第07回：第3問「本当の「自己」とは何か？」に関する発表と討議 第08回：デカルトのコギトに関する発表と討議 第09回：第4問「無我説は成り立つか？」に関する発表と討議 第10回：第5問「名付けの根拠は何か？」に関する発表と討議 第11回：普遍論争に関する発表と討議 第12回：第6問「知識は形をもつか？」に関する発表と討議 第13回：知識の定義に関する発表と討議 第14回：第7問「どのようにして，何が何の原因なのか？」に関する発表と討議 第15回：発表予備・授業アンケート 授業の一環として高大連携哲学演習を実施する予定です。日程については初回に発表します。						
(7)成績評価の方法	成績は、最終レポート6割、発表と質疑応答の内容4割で総合して判定します。その際、「授業のねらい」で記した通り、各自の発表やそれに対するコメント，グループ討議を通して，哲学的なテーマに対して，それぞれが問題を発見し，文献を調べ，その内容を吟味して自らの意見を構築するプロセスが身についたかどうか，を評価の基準としています。						
(8)成績評価の基準	発表・レポートに関しては、与えられたテキストの理解（要約）ができていることを水準とし、そこから関連する文献等を調べていることができてれば，「やや上にある」、さらに自己の見解を筋道を立てて論述できていれば，「かなり上にある」、さらに優れた問題設定がなされていれば，「卓越している」と判断します。						
(9)事前事後学習の内容	発表者／発表グループ：教科書の担当範囲に関して，その内容および背景となる情報等を整理して，自分の見解を織り込んだ発表レジュメあるいはスライドを前日までに準備します。この発表内容が授業の土台になります。 参加者：教科書の担当範囲を十分に予習して，発表に対する疑問・コメントをあらかじめ用意しておきます。授業中に発言できなかった場合は，討論に対する自分の意見をe-ALPSにその日のうちに書き込みます。書き込みがなければ，授業に出席していても「欠席」とみなします。						
(10)履修上の注意	(１)哲学（西洋哲学だけでなく東洋哲学やその他の哲学もふくむ）に対する興味・関心があることが大前提です。「哲学」という単語からの連想で安易にこの授業を選択すると後悔することになります。授業内容を確認したうえで履修するかどうかを決めてください。 (２)自分の意見を勇気をもって発言する力がない人には退席を命じることがあります。ただ座っていればよい，という授業ではありません。 (３)無断欠席・遅刻がないようにしてください。事前（やむをえない場合は事後に）教員にメールで連絡してください。 (４)私語・居眠りなど，明らかに授業に参加する意志がないものとみなされる場合には，その段階で「不可」と判定します。						
(11)質問,相談への対応	メール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。						

(12)授業への出席	この授業の出席／欠席の基準は「授業への積極的な参加」です。担当回で発言がない場合や、e-ALPSへの書き込みがない場合は「欠席」扱いとなります。ただし、必要となる出席回数は特に定めません。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業内容に関する資料はすべてe-ALPSにアップしてあります。出席できない場合はe-ALPSの資料で学修の補充とします。
【教科書】	宮元啓一『インド哲学 七つの難問』, ISBN: 978-4-480-51305-2, 筑摩書房（ちくま学芸文庫）, 2025年, 価格：1320円
【参考書】	麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群 もういちど考えてみること』, ISBN: 978-4779500381, ナカニシヤ出版, 2006年, 価格：2640円